

ファンド通信 |

One / ウェリントン・
コントラリアン・バリュー・ファンド

追加型投信 / 内外 / 株式

ポートフォリオの状況のご案内

2025年7月31日に「One / ウェリントン・コントラリアン・バリュー・ファンド」(以下、当ファンドということがあります。))を設定し運用を開始しました。当資料では、当ファンドの実質的な運用を行う、ウェリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウェリントンという場合があります。))のポートフォリオ・マネジャーからのメッセージと足もとの運用状況等についてご案内します。

ポートフォリオ・マネジャーからのメッセージ

私たちの投資哲学の中核にあるのは、「資本サイクル × 逆張り」というアプローチです。これは単なる理論ではなく、私自身が長年の運用経験を通じて幾度となくその有効性を実感してきた“実践の知”です。

市場が過度に悲観的になっている“逆風”の局面で、誰も見向きもしない銘柄—そこにこそ、真の価値が眠っていると私たちは確信しています。資本が不足し、設備投資が削減され、リターンも期待も低迷する。そんな資本サイクルの低迷期にある企業は、しばしば市場で過小評価され、株価は極端な割安水準に置かれます。だからこそ、資本サイクルが好転し始めたとき、大きなリターンの可能性が生まれるのです。

私たちは、模倣が困難で代替が難しい「希少性の高い資産」を持つ企業に焦点を当てることで、長期的に持続可能な競争優位性を見極めます。希少性は、短期的には市場で過小評価されがちですが、長期的にはリターンの源泉となり得る重要な要素です。

また、私たちはすべての投資対象において、バランスシートの健全性を重視しています。これにより、さらなる下方リスクを抑え、資本サイクルの好転をじっくりと

待つことができるのです。リスクを抑えながらも、上昇局面でのリターンを最大化する—それが私たちの目指す投資の形です。

当ファンドは、ベンチマークに捉われない運用を採用し、資本の長期的な成長を最大化することを目指しています。市場で過小評価されがちで希少性や、現在の状況が今後も続くと思いつく傾向があるという2つの非効率性を活用し、下落局面での耐性と上昇局面での力強いリターンを両立させる、差別化されたポートフォリオを構築してまいります。

私たちは、投資家のみなさまの大切な資金を、市場の思い込みから解放し、まだ評価されていない真の価値へと導くことを使命とし、情熱と責任を持って運用に取り組んでまいります。

ウェリントン
シニア・マネージング・ディレクター、
ポートフォリオ・マネジャー
キース・ホワイト



※上記の運用方針・考え等は当資料作成時点におけるものであり、投資環境の変化等により予告なく変更される場合があります。また、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。



アセットマネジメントOne

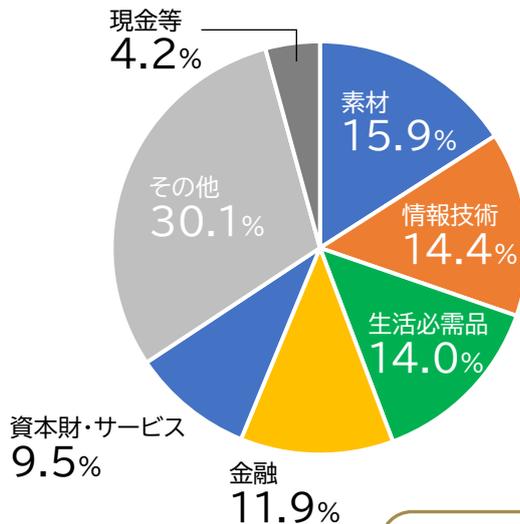
商号等:アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
加入協会:一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当ファンドは2025年7月31日に設定・運用を開始しました。

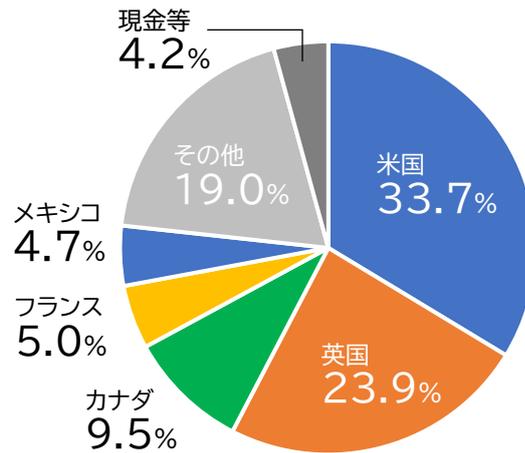
当ファンドが投資するコントラリアン・バリュー・マザーファンドの8月4日時点(純資産総額:126億円)の状況は以下の通りです。

コントラリアン・バリュー・マザーファンドの状況

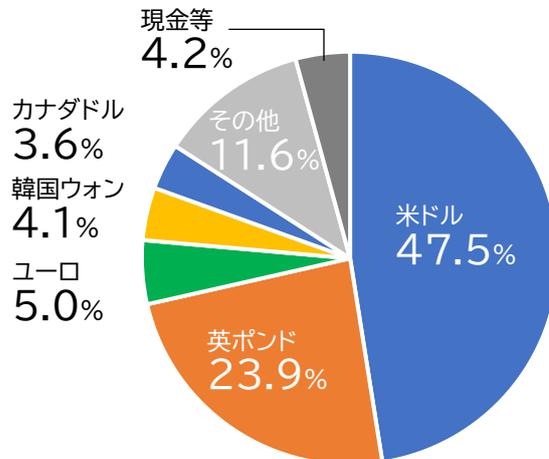
業種別比率



国・地域別比率



通貨別比率



※2025年8月4日時点

※比率は、純資産総額に対する割合です。なお、各比率の合計は四捨五入の関係で100%とならない場合があります。

※業種はGICS(世界産業分類基準)に基づいています。

Column 「協働」が運用を強くする

コントラリアン・バリューチームは、同じ志を持つ5名で構成され、他のポートフォリオ・マネジャーやリサーチ・チームとも緊密に連携しています。その中でも特に生涯アナリストと呼ばれる熟練したアナリストやクレジット・アナリスト、マクロ・スペシャリストなどと「協働」しています。

長年にわたり特定のセクターを担当する生涯アナリストは、担当分野における深い経験と専門知識を有しており、企業の構造的な変化や資本サイクルの転換点を見極めるうえで、重要なひらめきを提供してくれます。また、社債を担当するクレジット・アナリストのバランスシート分析を通じて、増資リスクやデフォルト懸念の有無を確認しています。これにより、株主価値の希薄化リスクを回避し、持続可能な投資判断を下すための重要なインプットを得ています。

※上記は過去の運用実績および作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

コントラリアン・バリュー・マザーファンドの組入上位10銘柄

銘柄名	業種	国・地域	組入比率 (%)	評価ポイント
1 サムスン電子	情報技術	韓国	4.1	スマートフォンや家電から半導体、ディスプレイまで幅広く展開する世界的IT企業です。特に半導体メモリで世界トップシェアを誇り、需給悪化時でも大規模な研究開発投資を継続し、技術的リーダーシップを維持しています。現在はメモリ需給の回復、次世代メモリチップの需要増加により再投資フェーズへ移行しており、割安評価されやすい韓国市場の特性も相まって、逆張りの投資妙味が高いとみています。
2 台湾セミコンダクター	情報技術	台湾	3.9	世界最大の半導体ファウンドリ(製造専門の半導体メーカー)であり、アップルやエヌビディアなど主要テック企業に半導体チップを供給しています。大規模な設備投資により技術優位性を確立し、現在は高収益構造への移行を進めています。また、地政学リスクへの対応として製造拠点の戦略的な分散も進めており、同企業の事業規模や資本集約性は再現困難な重要なインフラになっています。業界内で寡占的ポジションを有していることから魅力的な投資機会と考えています。
3 ブリティッシュ・アメリカン・タバコ	生活必需品	英国	3.4	世界180カ国以上で事業を展開する大手たばこメーカーです。ESG*懸念や米国事業の不振で割安評価が続いていましたが、安定的なキャッシュフローと次世代製品への資本配分のシフトにより成長性の回復が見込まれています。高い参入障壁とブランド力を有しており、市場のネガティブ要因が織り込まれるなかでの正常化期待という逆張りの視点から投資妙味があるとみています。
4 ウェルズ・ファーゴ	金融	米国	3.2	商業銀行から資産運用まで幅広い金融サービスを提供する大手金融機関です。米国の金融規制強化による資本制約の時期を経て、ESG強化やデジタル化を進展させており、資本構造の改善と事業再構築を図っています。公益事業的な安定性と事業改革による成長性の両立が可能なフェーズに入りつつあるとみています。
5 バリック・マイニング	素材	カナダ	2.9	世界各地で金・銅鉱山を展開する大手金鉱企業です。インフレや地政学リスクの高まりにより金への需要が構造的に増加しており、同社は高品位鉱床と地理的分散により安定した収益性を確保しています。規律ある資本支出と強固なバランスシートに加え、持続可能な資源資産を有するという観点からも魅力的です。
6 ブルーデンシャル	金融	英国	2.9	アジア・アフリカ市場に特化した生命保険・年金事業を展開する企業です。同社は新興国市場の供給制約を背景に、人材育成や販売体制の整備、デジタル化を進めており、成長性の高い新興国市場での高いエクスポージャーを有しています。また、保険と資産運用の垂直統合モデルにより、拡張的な保険モデルを有しており、安定したキャッシュフローと資本効率を両立している点を評価しています。
7 ユニリーバ	生活必需品	英国	2.9	パーソナルケアや食品など多ブランドを展開する消費財メーカーで、新興国売上比率が高いグローバル企業です。過去の過剰投資からの資本の再構築期にあり、ブランドの選択と集中によるROIC(投下資本収益率)改善を進めています。サステナブル製品の強化やECチャネル拡充により、企業価値の見直しが期待されます。
8 ソシエテ・ジェネラル	金融	フランス	2.7	フランスに本社を置く欧州の大手銀行で、欧州を中心に多様な金融サービスを提供しています。新CEOによる経営改革が進み、資本構造の強化と収益性の改善がみられます。金利環境の好転も追い風となり、産業やセクター等の投資テーマと比べて運行ながら資本サイクルの転換点にあるとみています。
9 アンテロ・リソースズ	エネルギー	米国	2.6	米国東部のアパラチア盆地で天然ガス・原油の探鉱・開発を行う企業です。新型コロナウイルスのパンデミック後の慎重な資本配分を経て、欧州における需要の回復により再投資フェーズに入りつつあります。高い参入障壁と自社インフラによる競争優位性、資本規律ある経営方針を評価しています。
10 ファースト・ソーラー	情報技術	米国	2.6	薄膜型太陽光パネルの製造を行う企業で、米国の政策支援を受けて設備投資を再開しています。非効率事業からの撤退を進め、太陽光パネル製造に集中することで資本効率を改善。ESG投資の観点からも高く評価されており、長期的な成長基盤の構築が進んでいます。

* ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の略称です。

※2025年8月4日時点

※業種はGICSに基づいています。組入比率は純資産総額に対する割合です。

※上記は過去の運用実績または作成時点の見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※個別銘柄の売買を推奨するものではありません。また、今後も当該銘柄の組入れまたは保有の継続を示唆・保証するものではありません。

※最終ページの「投資信託ご購入の注意」をご確認ください。

組入銘柄数: 60銘柄

ファンドの投資リスク

当ファンドは、実質的に株式等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資します。このため、株価の変動、為替相場の変動、十分な流動性の下での取引を行えない場合、有価証券等の発行者にかかる信用状況の変化、投資対象国・地域における政治・経済情勢の変化等により、組入れた有価証券等の価値が下落し、基準価額は下落することがあります。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクは次の通りです。

- 株価変動リスク
- 為替変動リスク
- 流動性リスク
- 信用リスク
- カントリーリスク

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

収益分配金に関しては、投資信託説明書(交付目論見書)の収益分配金に関する留意点をご覧ください。

お客さまにご負担いただく手数料等について(みずほ証券でお申込みの場合)

詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ご購入時	ご購入時手数料	購入金額に応じて、購入価額に以下の手数料率を乗じて得た額とします。
		1億円未満 …………… 3.30%(税抜3.0%)
		1億円以上3億円未満 …………… 1.65%(税抜1.5%) 3億円以上 …………… 0.55%(税抜0.5%)
ご換金時	換金時手数料	ありません。
	信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.1% の率を乗じて得た額とします。
保有期間中 (信託財産から間接的にご負担いただきます。)	運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.793%(税抜1.63%) ※委託会社(アセットマネジメントOne株式会社)の信託報酬には、コントラリアン・バリュー・マザーファンドの株式等の運用の指図に関する権限の委託を受けた投資顧問会社(ウェリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー)に対する報酬(当ファンドの信託財産に属する当該マザーファンドの純資産総額に対して年率0.58%)が含まれます。
	その他の費用・手数料	組入る有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の諸費用、外国での資産の保管等に要する費用、監査費用等が信託財産から支払われます。 ※その他の費用・手数料については、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記手数料等の合計額等については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。

※上場投資信託(ETFおよびREIT)は市場の需給により価格形成されるため、上場投資信託(ETFおよびREIT)の費用は表示していません。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

投資信託ご購入の注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当ファンドは、実質的に株式等の値動きのある有価証券(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は
 - 1.預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 - 2.購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 - 3.投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

指数の著作権等

- 世界産業分類基準(GICS)は、MSCI Inc.(MSCI)およびStandard & Poor's Financial Services LLC(S&P)により開発された、MSCIおよびS&Pの独占的権利およびサービスマークであり、アセットマネジメントOne株式会社に対し、その使用が許諾されたものです。MSCI、S&P、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者のいずれも、かかる基準および分類(並びにこれらの使用から得られる結果)に関し、明示黙示を問わず、一切の表明保証をなさず、これらの当事者は、かかる基準および分類に関し、その新規性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性についての一切の保証を、ここに明示的に排除します。上記のいずれをも制限することなく、MSCI、S&P、それらの関係会社、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者は、いかなる場合においても、直接、間接、特別、懲罰的、派生的損害その他一切の損害(逸失利益を含みます。)につき、かかる損害の可能性を通知されていた場合であっても、一切の責任を負うものではありません。

照会先

アセットマネジメントOne株式会社



コールセンター **0120-104-694**
受付時間: 営業日の午前9時~午後5時



ホームページアドレス
<https://www.am-one.co.jp/>

お申込みにあたっては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください。

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

MIZUHO みずほ証券

商号等：みずほ証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号
加入協会：日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ 設定・運用は

Asset
Management
One

アセットマネジメントOne

商号等：アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会